日本科学者会議（JSA）滋賀支部

NEWS　LETTER

2018 年 10 月 9 日発行　第 40 号

事務局長　小島　彬
TEL/FAX　077-589-3724
akrkojima@ybb.ne.jp

「日本の科学者」（JJS）の積極的な活用－滋賀の大学図書館での JJS 購読化の取組みと、JJS の大学生を対象とした企画の提案

今期の JSA の全国大会の方針に、滋賀支部が提案した大学分会での JSA の学生向けの企画と、大学図書館の JJS 購読化の推進が入れられました。これは今後 JSA の会員数の V 字回復を目指すには、今の大学生に JSA の風を当てることが必要だという認識に基づきます。

滋賀では 9 つの大学があり、京都に本部を置く立命大、龍谷大の滋賀キャンパスの図書館では、JJS を以前から購読しています。県大では購読していませんでしたが、私が県大に在職していた時に、会員の N さんと相談して図書館に毎月 JJS の宣伝誌を置いてもらうように依頼し、司書の K さんも快諾してくれ他の新刊雑誌と一緒に見えやすい場所に置いてもらえました。K さんに JJS の感想を伺うと、大学の教養課程がなくなったので、JJS は入門期の学生に打ってつけの雑誌だと言われて気をよくし、N さんが関係する分野で予算化してもらえ、合わせて N さんが JJS の創刊時から製本されていたバックナンバーを図書館に寄贈されました。私立の B 大学では会員の N さんに購読化できないかと相談したら、会員の O さんが図書委員をしているので購読の申請を行うと言ってくれ、難なく購読に至りました。私立の N 大学に関しては、私の大学時代の親友で他支部の会員の M さんの配信メールに、彼が街頭で演説中に偶然通りがかった滋賀の私立大学の事務局長が応援演説をしてくれ、自作の歌も歌ってくれたと書かれているのを見て、N 大学に電話をして事務局長にお会いし大学での JJS の購読をお願いしたら、学長に相談されて学長決済で 4 月から購読してくれています。滋賀大は幹事の I さんが図書館に聞き取りをしてくれたら、両学部でそれぞれ一時期購読されていたが、現在は購読されていません。そのため県大の例を見習い、9 月から当面両学部図書館に見本誌を置いてもらうことになりました。近年大学予算が極端に縮少され図書費も少ない状況ですが、JJS は大学にふさわしい学術雑誌であり、年に僅か 7,400 円なので会員の知恵と工夫で是非購読化にこぎつけてもらいたいと思います。滋賀医大は購読されていません。他に大津の湖西の 2 つの私立大学がありますが、JSA の会員もいないので滋賀支部幹事会では宣伝誌を大学に持っていき、購読を働きかける計画を検討中です。

このように努力をしても、専門以外に世の中の様々な問題に対して強く関心を持ち、JJS を図書館で目にして関心のある課題に興味を見出し、JJS を導きとして自主的に深く学んでいく大学生は非常に少なく、折角 JJS が大学図書館の書架に置かれていても、学生が目次を見るだけの状態になっている恐れがあります。

この状況を無くす妙案を述べます。私が現役教員の時に「学生新聞」が発行されていて（現在は廃刊）、様々な分野の教授らが学問することの意義や、初学者への導きを述べておられ、随分学生に参考になるなと感じていました。JJS でも JSA 内外の著名な自然科学、社会科学、人文科学の学者に依頼して、学問の学び方や科学的な思考の訓練のために、どのような本を読めばよいかなどのアドバイスを定期的に掲載することです。学生間で拡散するでしょう。JJS が為になったと実感し、研究を志して院生や教員になれば、必ず JSA に入会してくれます。私は 2 年生の折に悩んでいた時、運よく JSA 会員の所属学科の I 先生に声をかけられ、専門の物理学を本格的に学ぶには古典的な社会科学の名著の学習が必要だと言われ、紹介された多くの本を読んで先生と盛んに議論をし、私の世界観の形成や在職時の研究テーマの設定や推進に大いに役立ちました。上記の様な企画を JJS が持てば、I 先生に代わる役割を果たすことと思います。（滋賀支部事務局長）

会員の論考紹介

在ドイツの環境ジャーナリストで、JSA 滋賀支部会員の川崎陽子さんが、雑誌『科学』（岩波書店）に寄稿した 2 編の論考を紹介する。

（その１）「誤りが改訂されない『放射線副読本』の背景」（2015 年９月号）。

ここでは文科省が学校に配布している小学生向けと中高生向けの『放射線副読本』 の作成の実態が浮き彫りにされている。

筆者（川崎）は『副読本』の作成に協力した神田玲子氏（放射線審議会委員、放射線医学研究所）に対して、津田敏秀氏（岡山大教授、疫学）が誤りと指摘している４点について見解を求めた。その返答は縷々理由を述べながらも、議論が分かれている問題については、UNSCEAR の見解に従うとのことであった。

だが福島第一原発事故を取り扱ったUNSCEAR2013 報告書には、ベルギー代表団が過小評価としてサインしなかったなど、多くの批判がある。そこで

（その２）「放射線被ばくの知見を生かすために　国際機関依存症からの脱却を―小児甲状腺がん多発の例から考える」（2018 年２月号）

では、UNSCEAR2013 報告書に焦点を当てている。

日本学術会議分科会の報告書（2017 年９月）は、科学的根拠を UNSCEAR 報告書に依拠して書かれている。その分科会の中心メンバーは首相官邸専門家グループと共に、千葉地裁に被告である国側の連名意見書を提出している。一蓮托生といって良い。

だが欧州ではUNSCEAR2013 報告書は問題視されている。たとえば元 WHO の放射線防護・公衆衛生の専門家であるベーバーストック氏は、UNSCEAR の被ばく量推計は平均線量だけで線量分布がなく、過小評価になると批判している。

注目されるのは、これら日本の専門家がかつてチェルノブイリ事故の際に自ら導いた重要な論点が、福島では参照された形跡がないことである。たとえば長瀧重信氏はかつて「10 歳以下の子供が乳頭ガンになると、大人と全然違って、転移が早い」と述べていた。その他多くの重要なチェルノブイリの知見が福島では生かされず、もっぱらスクリーニング効果を主張する UNSCEAR 等国際機関が壁になっている。

この２つの論考を読み、UNSCEAR2013 報告書の限界と欧州における厳しい批判について多くの論点を教えられた。詳細は上記論考を参照されたい。

私の感想を言えば、事態はより深刻である。政府は「風評払拭・リスクコミュニケーション強化戦略」を発動している。国民の心の中から、放射能の過剰な危険視をぬぐい去ること、つまり洗脳作戦である。その目的は放射能安全神話を広め、国民を放射能（低線量被ばく）と共存させることである。その目的に合う限りで科学や国際機関を利用するが、都合が悪いと平気で歪曲する。こうした報告書のほとんどは、国際的権威に頼り、都合の良いことだけを並べた官僚文章で、科学的論理とは程遠い。　　（野口　宏）

個人会員分会学習会

滋賀支部の個人会員分会では、以下の学習会を企画しました。興味や関心のある方はご参加ください。

日時：10 月 13 日（土）14：00－16：00

会場：草津市立まちづくりセンター（3 階 304 会議室）

報告者：小池恒男さん（JSA 滋賀支部幹事、農業経済）

テーマ：“オルタナティヴ農業”をどう発展させるか―もう一つの農業のあり方を求めて、なぜ今アグロエコロジーなのか―／１．日本農業の未来をどう描くか／２．アグロエコロジーとは何か―「有機農業を核とする環境保全型農業」とアグロエコロジー―／３．アグロエコロジーはどこまで進んでいるか／４．アグロエコロジーをどう展望するか／１）オルタナティヴ農業のもつ重要な意味／２）ＧＡＰのもつ意味／３）「有機農業を核とする環境保全型農業」の推進対策／５．アグロエコロジーの定着・普及をめざして

JSA 近畿地区シンポジウム「豪雨災害・土砂災害－原因と対策」

近年自然災害が激しさを増しています。滋賀支部会員も多数ご参加ください。また自治体関係者にもお知らせください。

日時：12月1日（土）13：30～17：10

会場：龍谷大学深草学舎和顔館B110教室

池田碩（奈良大名誉教授）「ハザードマップ」の作成と活用／田結庄良昭（神戸大名誉教授）西日本の地質・地形の特質がもたらした西日本豪雨の土砂災害、特に土石流災害／中川学（国土研副理事長）良いまちには良い川がある― 水害問題にも触れつつ―／奥西一夫（京大名誉教授）災害の原因究明と対策

主催：JSA近畿地区、共催：国土問題研究会

資料代：参加者１人 500 円　　院生、学生　無料